

1. 評価報告概要表

作成日 2008年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1072500125
法人名	有限会社 グループホーム宮口
事業所名	グループホーム宮口
所在地	安中市松井田町二軒在家1580-4 (電話) 027-393-9200

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年9月25日

【情報提供票より】(平成20年 8月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人	常勤換算4.85人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 400円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円

(4) 利用者の概要(8月 27日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.2歳	最低	79歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松井田病院 ・ 小林歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

妙義山麓にあり山を一望でき、前には畑、裏には花畑などがある自然環境に恵まれた閑静なところである。新しい建物に、デイサービスと併設されたグループホームがあり、内部は共有空間も広くデイサービスとの通路もあり、明るく静かな雰囲気がある。職員は、高齢者や認知症を理解し、その特徴をふまえたあたたかいケアを行い、家庭の日常と同じように安心して生活していただけるように「思いやり」をもって、明るく楽しくを目指して地域の皆さんとともに福祉の増進を図りながら支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は、評価について理解している。前回評価の健康診断の実施については、自立度の低下とともに介助を必要とする入居者が多くなり、病院に向くこと等現状の職員数では対応出来ないため、対応できていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者が作成している。管理者・職員ともに自己評価に取り組み、現状問題解決のために協議し有意義な自己評価とされたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、以前は4月・6月に開催しており今年は9月に行う予定であったが、入居者の自立度低下が著しくケアに関わる時間が多くなり現在は開催されていない。現在、市関係者等に問題提起し検討中である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に、意見箱を置いている。家族等の訪問時の職員の関わりにより、何でも言ってもらえるように努めている。また、意見等は申し送りノートに記入し、全職員で対応に心がけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の町内会の一員として町内会費を払い地域との接点を図っている。地域にあつては散歩の時の声掛けや買い物での受け入れをしてくれている。野菜を持って来てくれる方や休んでいく方もいる。以前は地域の清掃活動など協力出来たが現在では利用者の自立度の低下により出来なくなったとのことであるが、地域とは相互関係が持てる体制作りなど検討し、地域との連携が取れるように期待される。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たち職員は、高齢者や認知症を理解し、その特徴を踏まえた温かいケアを行い、安心して家庭の日常と同じように生活して頂けるように『おもいやり』をもって明るく楽しくを目標とし、地域の皆さんと共に福祉の増進を図って行きたいと考えています。」という地域密着サービスの理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を共有し、常に理念立案時の原点に振り返り、安心して家庭の日常と同じように生活していけるように、日々のケアや日々優しい声かけなどを全職員で支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の一員として町内会費を払い、地域との接点を図っている。事業所が、公会堂の鍵を預かる等している。以前は地域の清掃活動などに協力していたが、入居者の自立度の低下によりしていない。現在は、散歩の時の挨拶や買い物に行き地域の人と交流している。また、野菜を持って来てくれる方や休んでいく方もいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、評価について理解している。前回外部評価の改善課題の健康診断の実施について検討したが、入居者の自立度の低下に伴い病院へ出向くことが困難なことや介助を必要とする入居者が多く現状の職員数の勤務状態では対応が困難なことから実施されていない。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、以前は4月、6月に開催しており今年は9月に行う予定であったが、開催されていない。入居者の自立度低下が著しくケアに関わる時間が多くなり、現状の勤務状態では開催は困難であり、市関係者等に問題提起し検討中である。	○	今後も市関係者等と話し合い、運営推進会議の開催に向け取り組んでいただきたい。懸案事項の取り組み状況や現在の問題点である現状を伝え、積極的に問題解決策を話し合い、運営推進会議のメンバーに改善経過のモニター役となってもらい、問題解決のための取組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者とは、問題が発生した際に相談している。現在、入居者の自立度の低下に伴い、市の担当者とのサービスの質についての話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	入居者の暮らしぶりや健康状態は、日々の状況を写真に撮り、身体的な面や行事などを記入して、利用料金と立替金の請求と共に送っている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に、意見箱を置いている。また、家族等の訪問時の職員の関わりにより、何でも言ってもらえるように努めている。意見は、申し送りノートに記入し全職員で対応に心がけている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	今まで異動等がほとんどなく、馴染みの職員による支援が受けられるよう支援している。入居者に不安を与えないよう職員全員で声かけを行い、安心感を得られるように心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	以前は西部地区の研修委員をしていたが、現在はホームでの対応のため研修の時間が取れなく、昨年より研修に出席出来ない状態となっている。職員同士では、介護について話し合うようにしている。	○	サービスの質の向上のため、職員に研修が受けられる機会が与えられるよう検討されたい。
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者との交流は、現在ホームでの対応のため、会議等の不参加が多くなり、交流があまり取れなくなっている。	○	時間の余裕が取れるように体制を考えて、同業者との相談、交流などを行いサービスの質の向上に努められたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は、面接に時間をかけて入居者や家族等にホームを理解をいただくように働きかけたり、出向いて話し合いなどをして、不安を抱えないようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から昔の話を楽しそうに話してもらったり、戦争体験や着物を大切にすることなどを教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者の側に寄り添い、関わりを多く持つことにより、個々の意向の汲み取りに努めている。口に出して言える入居者からはその言葉、感情の表れ、家族の意向などから、どうしたいのかを理解し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回職員会議(第3火曜日)を行って、ケースの状況からケアの必要性を検討している。病院の医師によるアドバイスをいただく場合もある。家族や本人には、月1回の時間をつくり意向の把握をしている。家族や本人、病院の意見を基に介護計画書の作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月に見直しはしている。状態の変化が多い場合は、全職員、入居者家族等による話し合いで見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	以前はリハビリに努力をしていたが、自立度低下により出来なくなっている。現在、往診に伴い本人の状況を医師に伝えたり、医師からの説明等を本人や家族等に伝えるなどの聞き取り支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の連携医がかかりつけ医であり、入居時に家族等に説明し納得していただいている。月1回往診対応してくれ、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで終末期を迎えた入居者がいなかったため、考えてはいたが方針や具体的な対応等が決まられていない。	○	重度化に伴う意思確認を本人や家族と行うとともに、事業所が対応出来るケアについても説明を行い、意思確認記録などを作り、関係者全員で方針を共有することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の過去の経歴を大切に、尊厳をきずつけないように、話を聞いたり日常のなかでの対応に努めている。日誌等の記録は、事務室で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状では希望を言うことが困難になり、幻覚や妄想もあり、本人の意思確認が難しくなっているが、皆が家族という認識の下にその人その人への接し方を大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が以前はコロッケなどを作ってくれたが、現在は一緒に食事づくりや準備・片付けは困難である。食事は、キザミ食からミキサー食の提供を行い、誤嚥しないように職員は支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週2回を基本としている。希望によって清拭にしている場合もある。職員の介助により入浴しており、入浴の困難な人もできるだけ入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前は食事づくりをしていた入居者もいたが、現在は困難となっている。植木を趣味としている人がいるので庭の手入れを一緒に行っている。自立度が低下している入居者については、気持ちを汲み取るように話をしたり、相談しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出られる入居者に対しては、外へ自由に散歩したり、庭いじりなど行っている。他のほとんどの入居者が車椅子利用であり、希望を聞いて戸外に出て花などを見るなど支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は、管理者、全職員が理解しており、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練は、7月頃に行っている。災害時用の食料や水の備蓄をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況をみながら、1000～1500カロリーを一日の目安にバランスを考えて栄養摂取できるように支援している。水分は1日2500ccを目安に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用ホールや居室から、季節ごとにいろいろな花が見られるように裏の畑で花を作っている。ホールは明るく、一人で過ごせるようソファが置かれたり、食堂の椅子とは別の椅子が置かれている。壁に折り紙を飾ったり、暖簾等の工夫がしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、これまで使用していたソファ、テレビ、箆筒等を持ち込み、馴染みのある物を活かしながら室内を心地良く過ごせるよう工夫している。なかには、趣味を活かした写真を集めた「家族旅行の写真展」を飾ってある居室もある。		